

発言No. 18

受付No. 21

平成 26 年 8 月 26 日
10 時 50 分 受付

一 般 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 18 番 氏名 西田清久

答弁を求める者 (市長) 教育委員会委員長 監査委員 選挙管理委員会委員長
(○をつける) 農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1 石見地域の自治体連携について

(1) 浜田市と邑南町との「食」を通じた観光・文化交流協定の締結について

① 島根県石見地域の小規模自治体のまちづくり施策は、複数の自治体が都合よくまとまり、連携することも大変重要だと考える。その連携も義務的な連携と戦略的連携があるように思う。邑南町との「食」を通じた観光・文化交流協定の締結は、戦略的な要因を感じるが、その背景とビジョンについて市長に問う。

② 邑南町は、グリーンツーリズムやこども農山漁村交流プロジェクトが盛んに行われている。交流協定事項の中に、相互の住民による観光交流の促進が挙げられているが、将来的なイメージについて問う。

(2) 交流都市「浜田」の推進について

① 過疎、高齢、少子化の最先端を走っている石見地域には、残された「お宝」がたくさんある。特に地震や台風などの災害も比較的少なく、ゆったりと叙情的にスローライフを楽しめる地域が多くある。浜田自動車道を軸に山陰、山陽を結ぶ石見の中核として様々な交流の積極的な推進を望むが、考えについて所見を伺う。

2 市民一体の自治意識の醸成について

自分のところが優先、我が先の意識では良いまちづくりは出来ない。相手や他の地域の背景や実情を十分に認識、理解することが大事と考える。まちづくりの基本は、自分たちの地域のことは、自分たちで考え、汗をながし、足りないところは行政等に相談し、力をかりる。しかしながら初めから行政や補助金に依存した意識は、あきらめも早いように思う。

① 自治区制度公聴会でいろいろな声が市民から出された。浜田市の一体的なまちづくりについて、住民サービスや負担は、公平性が必要だが、私は大小それぞれの地域が持っている歴史、文化、自然、特産品、人、行事、施設などの地域資源は、さらに個性的に活かされることが浜田市の一体的なまちづくりであり、個性が活かされないと浜田市の魅力も無くなると考えるが、市長の所見を問う。